

定期報告（ウルグアイ内政・外交：2017年8月）

【内政】

1 補正予算案の下院承認

5日、補正予算案が下院で99議席中51議席の賛成票を得て、ほぼ原案通り承認された。その後、上院での審議を経て施行される運びとなる。与党は、下院で過半数割れしていたことから野党議員1名の協力を得て同予算案の承認にこぎつけたが、唯一、野党の発意により変更が加えられたのは、共和国大学卒業者に義務づけられている連帯基金（奨学金供与等に使われる）への支払いで、現在の35年間から25年間に引き下げられた。

2 大麻の販売薬局の銀行口座閉鎖

共和国銀行（国営）及びサンタデーラ銀行等が、大麻の生産・流通に関わる機関との取引の中止を発表し、大麻規制管理法に基づき合法的に大麻を販売する薬局の銀行口座が閉鎖される事態が生じている。ウルグアイの銀行は、米国にあるコルレス銀行を通じて外国送金及び為替取引を行っており、米国の現行法では全ての大麻取引が金融規制の対象となることから、合法違法に関わらず大麻取扱い機関の口座を保有するウルグアイの銀行は、在米銀行との取引を中止される可能性があり、商業上重要な為替取引等が操業不能となることを懸念し、大麻販売薬局の口座閉鎖を決定した。政府は、当面の間、現金による大麻の販売を推奨している。

【外交】

1 ベネズエラ情勢

8月1日、ウルグアイ外務省は、ベネズエラ制憲議会選挙終了後に行われた同国反体制派リーダーの拘束に対する非難声明を発出した。また、4日に伯で開催されたメルコスール外相会議でベネズエラのメルコスール資格停止に関する決定が行われ、ウルグアイが反対しなかったことについて、バスケス大統領は、メルコスール内でベネズエラを擁護する根拠が無くなったと説明。同大統領は、ウルグアイは、ベネズエラに説明を行う余地を与えるとともに、野党との事前交渉無しに制憲議会を招集しないよう訴えてきたが、いずれについても同国政府から前向きな回答が得られなかったと述べた。一方、14日、バスケス大統領は、トランプ米大統領のベネズエラの危機打開のために軍事介入も厭わないとの発言を完全に拒絶し、ベネズエラ国民自身による危機の打開を支持した。

2 ウルグアイ・アルゼンチン外相会談

3日、ニン・ノボア外相はフォリー外相と会談し、政治面で一致する点、経済分野での着実な前進等の二国間関係、及び地域・多国間関連事項について意見交換した。また、二国間国境分野における進展を約束し、地域及び国際的な経済統合の重要性について一致した。なお、両外相による会談はフォリー外相が就任（2017年6月12日）してから今回で3度目となり、二国間の強固な戦略的関係を表すものと評価されている。

3 ウルグアイ・チリ協力共同委員会

10日、サンチアゴにおいて、2008年7月7日に署名された戦略的提携協定の枠組みで第4回ウルグアイ・チリ協力合同委員会が開催された。両国は2017年ー2019年の協力プログラムに合意し、優先分野として環境、天然資源、エネルギー、制度強化・近代化が挙げられた。また、中南米地域を中心とした三角協力の重要性について意見交換し、三角協力を二国間協力プログラムの枠組みで行うことへの関心を表明した。

4 バスケス大統領の国際対がん大使への任命

17日、バスケス大統領は、ディナ・ミレッド国際対がん連合（UICC）新会長兼ヨルダン王女より、都市におけるがん治療対策を推進する対がん大使に任命された。同会長は任命の理由として、バスケス大統領の反タバコ政策及び慢性病対策における実績をあげ、UICCは対がん運動推進のための強力なリーダーを必要としていると述べた。なお、バスケス大統領は、医学博士かつウルグアイ有数の癌・放射線治療専門医でもある。

5 マイアア下院議長のオーストラリア訪問

21日、マイアア下院議長はオーストラリアを訪問しビショップ同国外相と面会した。マイアア下院議長は、多くのオーストラリア企業がウルグアイに進出しており、社会保障に関する二国間協定締結の重要性を強調した。また、在外選挙の重要性について述べ、オーストラリアに在住する1万6千人のウルグアイ人を含む在外コミュニティは、一般的にマスメディアを通じてウルグアイの国内状況を熟知しており、在外における投票権の行使のために便宜をはかる必要性を強調した。現在、ウルグアイ人の在外投票は認められておらず、投票ができるのは国内のみとなっている。

【要人往来】

○往訪

- 4日、ニン・ノボア外相の訪伯
- 21日～23日、マイアア下院議長の訪豪

○来訪

- 3日、フォーリー亜外相
- 17日、ディナ・ミレッド国際対がん連合（UICC）新会長兼ヨルダン王女

（了）